

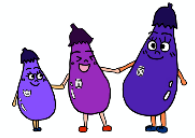
南っ子だより 5号

飽田南小学校だより

令和7年7月18日(金)

文責:松永 和宏(校長)

学校教育目標 人を大切にし 健やかで よく学び けじめのある 南っ子の育成
～こどもが主役 笑顔があふれ、安心して過ごせる学校づくり～



1学期が終了しました。保護者の皆様におかれましては、学校の教育活動にご理解、ご支援いただき、ありがとうございました。

ふるさとのよさを見つけてね

終業式では、次のような内容の話をしました。

最近、外国人の観光客がたくさん日本を訪ねてきます。

それは、日本にたくさんいいところ、みりょくがあるからです。

食べ物がおいしい、自然が美しい、歴史や文化、お祭りや伝統行事に触れたい、スポーツ観戦がしたいなど理由は様々ですが、それらはすべて、そこに住んでいる人、関わる人の支えがあってこそなのです。

お弁当やコンビニスイーツの味の向上に努める人、山や海、公園などを維持管理する人、様々なお祭りを成功させようとする人…

夏休み、普段できない学びをたくさんしてきてください。その中で、ふるさとのよさをたくさん見つけてきてもらえると嬉しいです…

夏休みは学校の授業こそありませんが、だからこそ生きた学びができる時だと思います。その中でふるさとの、日本のよさに触れる機会がこどもたちにあればいいと思います。

他者意識が育っています

1学期終わりの時期になると、「お楽しみ会」「頑張った会」などに取り組む学級が多いです。単にレクリエーションの意味だけでなく、節目を意識した、学級づくりの一環として意義あるものです。各学級から、楽しそうな声が聞こえてきます。

そんな中、南っ子の高学年は一味違いました。6年生は1年生を招待しての「みにまつり」を開催。ブースを作って、呼び込みをして、1年生を様々なゲームで楽しませていました。その雰囲気は本当にお祭りのようで、1年生のはじけるような笑顔がたくさん見られました。

5年生も夏祭り形式でやって、ほかのクラスや先生たちを呼んでイベントをしていました。本物そっくりの焼きそばやかき氷、輪投げや射的、くじ引きなど、教室がまるで縁日のようでした。

「自分たちが楽しむ会をする」ことはもちろんですが、そこに「人を楽しませることで」という目的を加えることで、他者を意識し、「どうしたら楽しんでもらうか」という思考力、判断力、実践力が育つ、さらに実際に喜ぶ姿を見て達成感、自己有用感を高める。素晴らしい学びになっていました。この経験は必ず今後生きると思います。

